

# 海外事業

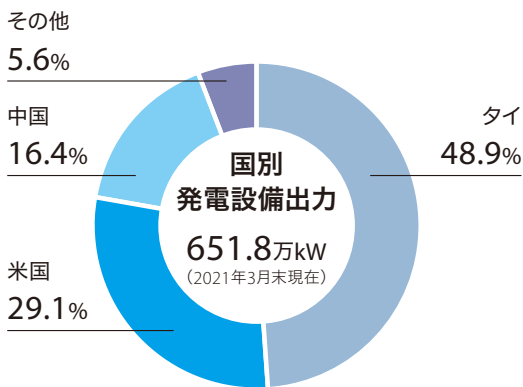
## 社会課題

- 海外での電力安定供給
- 気候変動問題
- 大気汚染等の地域環境問題

## J-POWERグループの提供する価値

- 海外でのコンサルティング事業や発電所開発による電力安定供給への貢献
- 海外における再生可能エネルギー開発や環境配慮型の最新鋭高効率火力発電所の建設を通じたCO<sub>2</sub>削減への貢献と環境問題への対応

## 国別発電設備出力



## 海外発電事業実績 (2021年3月末現在)

営業運転中	4カ国	31件	持分出力651.8万kW
うち連結プロジェクト	1カ国	9件	持分出力237.6万kW
建設中・開発中	4カ国	9件	持分出力251.2万kW

## 海外コンサルティング事業実績

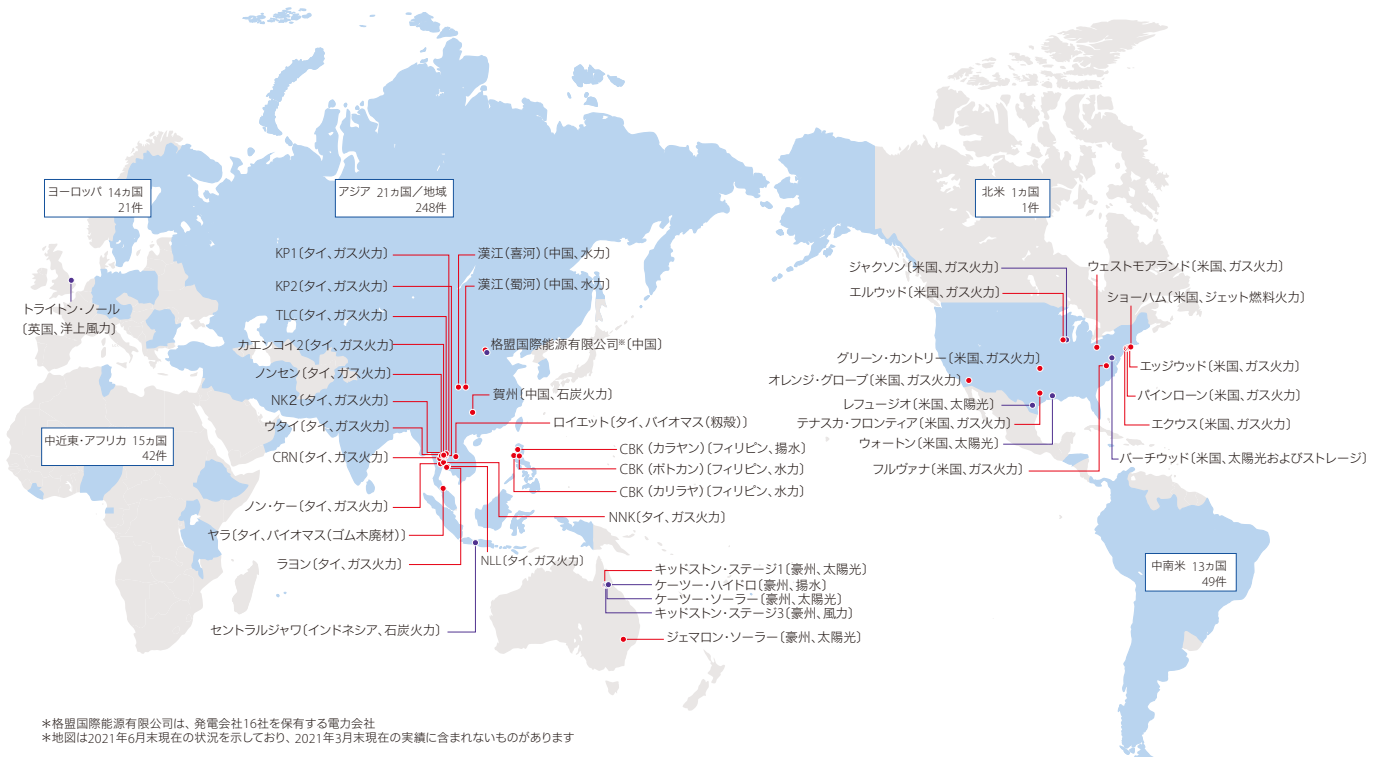
64カ国	361件
------	------

### 海外発電事業実績 (2021年3月31日現在)

- 営業運転中 31件
- 建設中・開発中 9件

### 海外コンサルティング事業実績

- 実績のある国/地域 64カ国
- 国/地域別件数 361件



\*格盟国際能源有限公司は、発電会社16社を保有する電力会社  
\*地図は2021年6月末現在の状況を示しており、2021年3月末現在の実績に含まれないものがあります

## J-POWERグループの事業

### ■ 海外コンサルティング事業

J-POWERグループは、国内の電気事業で得られた経験や技術を活かし、世界各地で電源の開発および送変電設備等に関する基礎調査、フィージビリティスタディ、設計、施工

監理、環境技術の移転などをコンサルティング事業として行っています。1962年に最初の案件を実施して以降、その数は、64カ国・地域で361件に達しています。

### ■ 海外発電事業

J-POWERグループは、長年の海外コンサルティング事業で培われた経験や信用、ネットワークを活かして、海外発電事業に取り組んでいます。

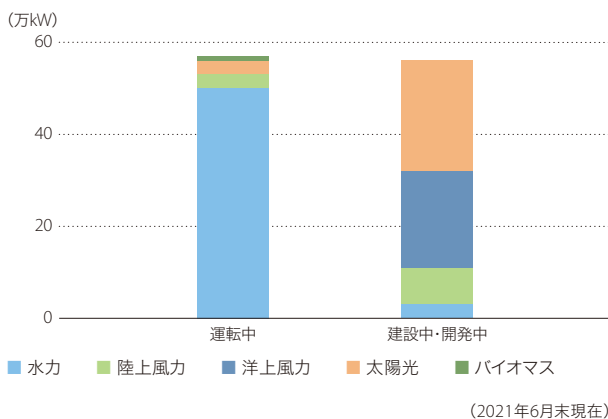
1997年の海外発電事業開始当初は、比較的小規模な出資による発電所の建設あるいは操業などへの部分的関与をベースとした事業参画が中心でしたが、その後、タイ、米国、中国、その他アジア諸国を中心に、優良な既存権益の獲得から新規電源の開発（グリーンフィールド）へ、段階的に事業を拡大してきました。さらに最近では、開発初期段階からプロジェクトに参画することで、開発機会の拡大や開発者利益の獲得を目指しています。こうしたグリーンフィールド案件や開発初期段階からの参画は、リスクが比較的高い反面、リスクに応じた収益性が期待できます。J-POWERグループは、高い技術力とプロジェクト組成能力により、リスクを最小化しながら高い収益性の実現を図っています。

現在インドネシアで建設中のセントラルジャワ石炭火力発電所や米国で建設中のジャクソンガス火力発電所はグリーンフィールド案件であり、また米国で開発中の太陽光案件では、開発初期段階から参画しています。

### 再生可能エネルギープロジェクト

これまでの海外事業発電設備はガス火力が中心でしたが、近年は再生可能エネルギーの開発プロジェクトにも注力しています。2018年には英国のトライトン・ノール洋上風力発電事業に参画、米国では2020年から太陽光発電の開発を開始しました。また2021年5月には豪州の再生可能エネルギー企業であるGenex Power Limited社に出資しました。現在建設中・開発中の海外再生可能エネルギープロジェクトの持分出力は56.1万kWとなり、運転中の海外再生可能エネルギー56.8万kWとほぼ同じ規模に達します。

### 海外再生可能エネルギー（持分出力）



トライトン・ノール洋上風力発電所 (英国、建設中)